

最上

大豆だより

第2号 中耕・培土編
令和8年7月1日
最上総合支庁 農業技術普及課
☎0233-29-1330（作物担当）

出芽は良好です！晴れ間を狙って適期に中耕・培土に入りましょう！

◎中耕・培土

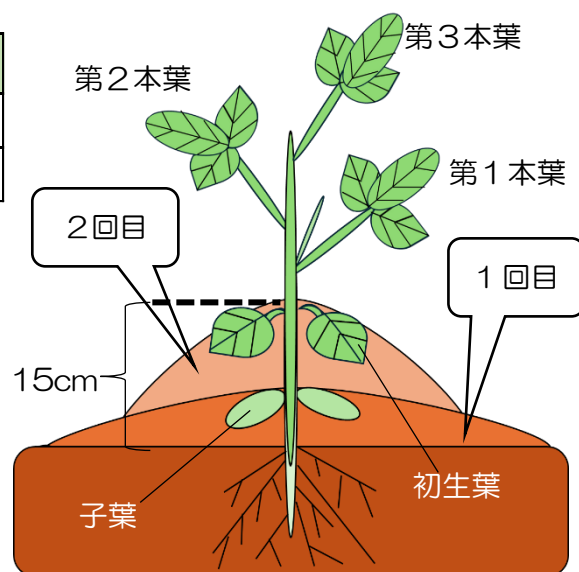
- ・出芽は良好でしたが、その後の降雨で生育がやや遅れている圃場が見られます。また、梅雨に入り平年と同様に曇りや雨の日が多いです。晴れ間を狙って適期作業に努めましょう。

<培土の目安>

回数	培土の時期	培土の高さ
1回目	本葉3葉期	子葉節が隠れるまで
2回目	本葉6～7葉期	初生葉が隠れるまで（15cm）

注意点

- ・培土が高すぎると収穫時に汚損粒の原因となるため、**最大15cm**の高さに留めましょう。
- ・株元が凹状になると滞水し湿害の原因となるため、凸状にしましょう。
- ・2回目の培土は、根を痛めないように**開花1週間前**までに終了しましょう。



中耕・培土の効果：①倒伏防止②排水性向上③根域拡大④雑草抑制

◎雑草防除

- ・今後、高温で経過する予報のため、雑草の生育も進むと予想されます。大豆の生育初期は雑草との競合に弱いため、時機を逃すと除草剤の効果が減少します。中耕・培土で除草できなかった雑草には、対応する除草剤を早めに散布しましょう。

周辺作物を確認しつつ風の強い日は散布を避け、ドリフト防止に努めましょう！

◎干ばつ対策

- ・大豆は開花期から登熟期に多量の水を必要とし、この時期に土壤水分が不足すると、落花・落莢により着莢数が減少し、減収に繋がります。開花期以降に無降雨日が続いた場合は暗渠を閉じて圃場周囲の明渠や畝間を利用してかん水し、土壤に水分を補給しましょう。また、圃場全体に行き渡らせるためにも明渠・暗渠の点検も忘れずに行いましょう。

山形県農薬危害防止運動実施中！ ～使用基準を確認し適切な使用を～

農作業中の熱中症を予防しましょう ～こまめな休憩と水分補給を～